

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201913		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌麻生(ライラック)		
所在地	北海道札幌市東区北35条東1丁目5-7		
自己評価作成日	令和5年8月13日	評価結果市町村受理日	令和5年10月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190201913-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ツクイ札幌麻生はグループホーム以外にもデイサービス、訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護サービスを提供しており、お客様のニーズに合わせたサービス提供が同一建物で提供できる施設になっており『元氣から看取りまで』をコンセプトに運営しております。グループホームは訪問看護ステーションが週1回の健康管理を行う以外にも、お客様の体調不良が生じた場合は、同一建物のためすぐに駆け付けて観てもらえるれ体制が整っております。施設内設備も万が一、車いす生活になっても車いす対応のトイレがあったり、電動ベットが各部屋に完備、また車椅子で入れる機械浴もご用意しております。クーラーも各部屋に1台ずつあり、お客様の体調に合わせた温度管理が可能になっております。健康面では栄養士によるメニューをミール食で提供しております。毎月の会議(研修)の中で虐待防止・身体拘束について話し合ったり、弊社内の研修部からの研修を活用し取り組んでおります。認知症の理解については弊社内だけの研修ではなく、外部研修を行い知識の向上に取り組んでいます。ご入居様は家事活動を毎日行い、役割を持って頂いてADLの維持や認知機能の低下を予防しております。残存機能機能を活かす取り組みを行う事や季節に合わせた行事を行う事で、『ご入居様が活き活きとし安心して尊厳を持った生活を送る事が出来る』よう、職員一同も工夫を行いながら一緒に生活をさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ツクイ札幌麻生グループホーム」は、地下鉄北34条駅から徒歩で10分程の場所に立地している。近くにはバス停やコンビニエンスストア、医療機関もあり生活の利便性が高い事業所である。1階は同法人のデイサービスや小規模多機能事業所などで、2階がグループホームになっている。ホールを中心に各ユニットがあり、居間や食堂は明るく開放感のある造りになっている。天井や壁には季節感のある装飾や観葉植物が置かれ、家庭的な温もりが感じられる。居室はエアコンや電動リクライニングベッドが備え付けられており、設備面も充実している。昨年新たに着任した管理者を中心に、一人ひとりの利用者に寄り添いながら健康面に配慮した丁寧なケアを行っている。管理者は法人のバックアップの下に計画的に研修を実施し、身体拘束委員会も毎月開催するなど、職員の資質向上を目指して積極的に取り組んでいる。運営推進会議は、書面会議の議事録にヒヤリハットや構成メンバーの意見を記載し、職員研修を報告するとともに研修資料も添付している。職員意見の反映では、管理者が普段から職員の意見や提案を聞き取りケアや環境整備に反映させており、職員も話しやすく働きやすい職場と感じている。看取りにも前向きに取り組み、住み慣れた場所で最後までその人らしい生活が送れるように全職員で温かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
		○	3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所内とフロアに掲示している。社内教育部より研修を実施し共有し実践に繋げられるように取り組んでいる。	事業所理念に「町内や自治体、医療機関などと連携を取り、地域に根付いた場を目指します」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた項目が含まれている。会議で唱和したり、身体拘束委員会で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では町内会長・民生委員・地域支援包括センター・ご家族様に参加を頂き開催が出来ているが、地域ボランティアなどは、まだコロナウィルスを危惧して実施できていない。	感染症流行のため地域住民との交流はほとんど無いが、訪問理美容の方が来訪したり、散歩で近隣の方と挨拶を交わしている。アイスクリームの移動販売車が来たこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は運営推進会議が再開したばかりで行えていないが、認知症ケアについて勉強会sが行えれたらと考えている。ご家族様や新規相談の方などへの電話にてのお伺いは実施出来ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回は計画的に開催し、サービス提供内容や、事故・ヒヤリハットを報告して。また、ご家族様から頂いたご意見を行動し、次の開催時に返答ができるようにしている。	昨年度は書面会議を行い、議事録に職員研修の資料なども添付している。6月、7月と対面での会議を開催している。今後は全家族にテーマを記載した会議案内を送付し、参加できない家族の質問や意見なども会議に反映させたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初に入居者の報告を行い、また、改善勧告を受け定期的に改善報告を行っている。	管理者は不適切ケアの対応について相談したり、食中毒や講習会などの情報提供を受けている。生活保護課の担当者と電話で情報交換することもある。普段から、何かあればすぐに相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を毎月開催し、身体拘束に繋がるような課題を話し合っている。また、毎月1回職員全員でチェックリストを実施し評価をしている。	身体拘束のマニュアルを整備し、毎月身体拘束委員会と勉強会を開催している。「禁止の対象となる具体的な行為」についても確認している。玄関の鍵は日中も施錠しているが、利用者が出かけようとした時は一緒に散歩するなど閉塞感を与えないように対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	2023. 3月と4月に2回虐待事例が起きた。両方とも行政への報告を済まし『改善勧告』の処分をもらう。今後2度と起こさないため職員、社内一団となって虐待防止へ取り組んでいる。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している入居者様がいないので、研修等は実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書・契約書・重度化に関する指針・個人情報保護などを説明し、分からない事がないか確認をとりながら進めている。また、契約内容等に変更が生じた場合は、書面と電話等でご説明し納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に頂いたご意見を検討し実施できるものは実施し、ご家族様へ結果を含めご返答させていただいている。また、電話での対応も行っている。	面会時や電話で利用者の様子を伝えて意見や要望を聞き取り、タブレット端末に個別に記録している。広報誌を毎月発行し、利用者の様子を写真などで伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	計画的に個人面談を実施し、夜勤者を含め年に2回面談が出来るように動いている。また、新入職員に関しては1か月・3か月と定期で面談を実施している。	毎月、全体会議とユニット会議を開催している。会議に参加できない職員の意見も事前に書面で確認している。職員の意見をケアに反映させたり、テーブル配置などの環境整備に活かしている。管理者は、年2回職員と個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間等については、出来る限り職員の希望に添える形をとっている。また、就労契約更新時には面談を設けて個別に向上心を持って働いてもらえるよう面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	Eケアラボというシステムを活用して毎月研修を行っている。また、本社教育部が定期的に訪問し職員全員に研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一建物内で多職種との交流をする機会がある。電話などで待機者のCMへ連絡を行い意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学を実施し、その時にご本人様の様子やニーズを確認し、関係機関から必要な情報をもらい、会える環境であればご本人様に直接会ってお話をして安心をして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	待機の状況でも定期的にご連絡を取り、状況確認を行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様の要望を把握し、必要としている支援を見極めて安心して暮らせていける環境作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、得意な事(家事動作など)を職員が導き、一緒に行っていくことで関係性を構築していく。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話・お便り・面会時などでg入居様の様子をお伝えしご家族様との情報共有に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話でのやり取りや、面会を通してご本人様の関係維持に努めている。	家族や親族と面会したり電話で話をしている。家族と一緒に自宅に帰ったり、墓参りで外出した利用者もいる。外食や温泉に出かけた利用者もいる。感染症の収束状況を見ながら、百合が原公園などへの外出行事も再開したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の性格や相性を考え、席などを考慮し孤立しないで楽しい生活が送れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様・ご家族様がご相談やご要望があった際、出来る限りお応え出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や様子から思いを把握し、ご本人様の意思を尊重しながら実現化できるよう支援を行っている。毎月ケアカンファレンスを行い意見交換をしながら、ご本人様に合った支援を検討している。	会話や仕草、表情などから思いや意向を把握している。趣味や嗜好などの変化についても職員間で情報交換しているが、見やすく記録化されていない。	フェイスシートなどを利用して趣味や嗜好などの情報も記録し、変化に応じて追記や更新を行うよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴を含めた情報を各関係者より頂いて、頂いた情報は記録に残し情報共有・把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	タブレットを用いて、ご利用者様の心理状態や身体状況、行動などについて、申し送りで見えやすく分け記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的に3か月で1回、計画書の見直しを行いご本人様の变化やご家族様・ご本人様の要望等を考慮し現状に即した計画書になるよう努めている。	担当職員の評価を基に全職員で話し合い、家族の意向を反映させて3か月ごとに介護計画を作成している。新規利用者は1か月で介護計画を見直している。日々の記録はタブレット端末で記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々の生活をタブレットを用いて、直ぐに情報を記録し、色々な職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に合わせて、同一建物内にある他事業や医療連系に相談して最適な生活を送れるよう繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、地域資源の活用は訪問理美容を利用になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い希望を伺っている。現在訪問診療は、週1回訪問歯科・週2回訪問診療・健康管理で週1回訪問看護が来ている。また、訪問看護は体調変化等へ直ぐに対応できるよう24時間連絡体制が整っている。	ほとんどの利用者が協力医療機関などの往診を受けている。家族と専門医などを受診する時は、健康状態を書面で伝えている。往診と受診記録はタブレット端末で個別に記録している。	

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の訪問看護ステーションが週1回健康確認を行い、その際に職員から情報提供して共有を図っている。訪問状況はタブレットに入力し内容を確認している。24時間の連絡体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院になった際は速やかに、介護・看護添書などの情報を病院へ提供し共有をしている。また、担当者へ細目に連絡を取り、状態把握をし退院後の受入れについて職員間で話し合っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に関する指針や、現段階での看取りについてご家族様へ説明し書面で同意を頂いております。終末期にかかってきた際は再度ご家族様へご意向を確認し、主治医を交えて方針の決定・共有を図るように努めています。	利用開始時に、重度化と看取りに関する指針に沿って事業所の可能な対応について説明している。体調変化に応じて主治医の判断の下に家族と方針を話し合い、希望に応じて看取りも実施している。昨年も1名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法を作成し掲示しています。また、転倒等の事故で病院受診が必要になった際も対応を職員には周知している。応急手当の実践訓練は実施できていないがeケアラボで視聴により学ぶ体制が出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の中避難訓練を実施している。また、災害対策で食料や暖房などを備蓄している。	感染対策のため、職員のみで防災技術センターの協力の下、建物全体での昼間の火災を想定した避難訓練を年2回実施している。感染症の収束状況を見ながら、職員の救命講習の受講を予定している。	地域との協力体制を再確認し、地域住民も参加した避難訓練を実施するよう期待したい。夜間の火災や各種災害時のケア別の個別対応について話し合い、定期的に再確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活環境や性格を考慮したうえで自尊心配慮したケアを心掛けている。個人情報も外部に漏れないよう細心の注意喚起を引いている。	毎月接遇に関する研修を行っている。別途法人研修も取り入れている。申し送りや記録はタブレットで行い、書類などは事務所内に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思が聞き入れやすくなるよう、言葉かけ等に工夫を行い自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースに合わせれるよう時間帯をずらせる物はずらし対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身での洗濯ができる方は自己決定を促し、職員で選ぶ場合は季節感や同じ服で重複しないよう配慮しながら実施している。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に合わせ食べやすい形状に合わせ、出来る限り自力摂取で召し上がれるように工夫を行っています。色合いなどの見た目も気を付けて提供しております。	盛り付けなど可能なことを利用者と一緒にしている。誕生日にはちらし寿司や蕎麦の出前、ケーキを楽しんでいる。クリスマスのオードブルや行事食、モナカなどのおやつ作りも食事の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タブレット内で1日の食事量・水分量を把握し、不足にならないよう確認を取りながら提供している。栄養バランスは栄養士が作成するメニューを基に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎回、口腔ケアを実施している。出来る限り自立援助で行い、磨きの腰を職員でd行うようにしている。義歯の方は夜間に預かり洗浄を行い清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、出来る限り汚染なく過ごして頂けるようトイレ誘導している。トイレは場所が分かるように目印を用いている。	個別の排泄状況をタブレットで記録している。約半数の利用者が自立しており、全員が日中はトイレを使用している。使用する排泄用品を個々の状態に合わせる他、声かけ誘導を行い失敗を減らして排泄の自立へとつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維などを用いて、なるべく薬を使用しない様に排便促進を促している。毎食前には口腔体操を含めてた体操を実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴を実施している。ご利用者様の趣味嗜好に合わせたシャンプーや石鹸を使用し、肌に合わせたタオルを使用している。体調に合わせて曜日などは変更し対応している。	日曜日以外の午前中を中心に一人あたり週2回の入浴を行っている。体調や以前からの生活習慣を維持するためにシャワー浴で対応することもある。職員と歌をうたったり、会話を楽しみながら入浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自身の希望・ペースに合わせて休息時間を設けている。夜間は安心して休息が取れるように個室のクーラーを用いて快適な温度設定を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイリングし変更があった場合は常に更新している。また、薬の変更があった場合は職員へ申し送りにて情報共有し適切な服薬が出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味嗜好を考慮し、ご利用者様個人にあった役割や脳トレを提供している。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて外出支援は出来ていない。施設周辺を散歩したり、施設敷地内で季節を感じてもらえるイベントを実施している。	天気の良い日は週3回程散歩に行く利用者もいる。玄関先や敷地内で外気に触れる機会を設けている。夏には手持ち花火を楽しんでいる。今後は感染症の収束状況を見ながら、百合が原公園や雪祭りの車窓見学などに出かけたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様やご家族様のご意向を考慮し、管理できる範囲であれば少額所持できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様・ご家族様がお話したい時は、いつでもできる体制を整えている。手紙のやり取りも支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置・音・光・温度の調整は配慮している。個々によって感じ方が異なる為に平均を取って行っている。壁紙などに季節感を感じてもらえるよう装飾を行っている。	リビングに面した大きな窓際には観葉植物があり、明るい空間が広がっている。天井や壁面には、季節感のある花火の装飾や利用者の作品が飾られており温かみを感じられる。空気清浄機やエアコンも備え付けられており、快適に安心して過ごすことのできる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うメンバーなどで寄り添うように配席している。ただし、固定をしてるわけではなくご利用者様がその時々で落ち着ける場所があれば柔軟に変更を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様・ご家族様にて安心して過ごせる環境を基に家具等を持ち込まれ居室区間を工夫されている。	クローゼットや電動ベッド、エアコンが居室に備え付けられている。テレビなどの電化製品や、使い慣れたタンス、仏壇、人形など思い思いの物を持ち込んでいる。家族写真や誕生日カードなども飾られており、落ち着いて過ごすことのできる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーになっており、手すりも完備されている。また、階段昇降が困難な場合でもエレベーターにて移動が可能になっている。居室はご本人様が迷わない様に表札や、飾りを付け工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201913		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌麻生(すずらん)		
所在地	北海道札幌市東区北35条東1丁目5-7		
自己評価作成日	令和5年8月13日	評価結果市町村受理日	令和5年10月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190201913-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ツクイ札幌麻生はグループホーム以外にもデイサービス、訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護サービスを提供しており、お客様のニーズに合わせたサービス提供が同一建物で提供できる施設になっており『元氣から看取りまで』をコンセプトに運営しております。グループホームは訪問看護ステーションが週1回の健康管理を行う以外にも、お客様の体調不良が生じた場合は、同一建物のためすぐに駆け付けて観てもらえるれ体制が整っております。施設内設備も万が一、車いす生活になっても車いす対応のトイレがあったり、電動ベットが各部屋に完備、また車椅子で入れる機械浴もご用意しております。クーラーも各部屋に1台ずつあり、お客様の体調に合わせた温度管理が可能になっております。健康面では栄養士によるメニューをミール食で提供しております。毎月の会議(研修)の中で虐待防止・身体拘束について話し合ったり、弊社内の研修部からの研修を活用し取り組んでおります。認知症の理解については弊社内だけの研修ではなく、外部研修を行い知識の向上に取り組んでいます。ご入居様は家事活動を毎日行い、役割を持って頂いてADLの維持や認知機能の低下を予防しております。残存機能機能を活かす取り組みを行う事や季節に合わせた行事を行う事で、『ご入居様が活き活きとし安心して尊厳を持った生活を送る事が出来る』よう、職員一同も工夫を行いながら一緒に生活をさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所内とフロアに掲示している。 社内教育部より研修を実施し共有し実践に繋げられるように取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では町内会長・民生委員・地域支援包括センター・ご家族様に参加を頂き開催が出来ているが、地域ボランティアなどは、まだコロナウィルスを危惧して実施できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は運営推進会議が再開したばかりで行えていないが、認知症ケアについて勉強会sが行えれたらと考えている。ご家族様や新規相談の方などへの電話にてのお伺いは実施出来ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回は計画的に開催し、サービス提供内容や、事故・ヒヤリハットを報告してる。また、ご家族様から頂いたご意見を行動し、次回の開催時に返答ができるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初に入居者の報告を行い、また、改善勧告を受け定期的に改善報告を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を毎月開催し、身体拘束に繋がるような課題を話し合っている。また、毎月1回職員全員でチェックリストを実施し評価をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2023. 3月と4月に2回虐待事例が起きた。両方とも行政への報告を済まし『改善勧告』の処分をもらう。今後2度と起こさないため職員、社内一団となって虐待防止へ取り組んでいる。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している入居者様がいないので、研修等は実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書・契約書・重度化に関する指針・個人情報保護などを説明し、分からない事がないか確認をとりながら進めている。また、契約内容等に変更が生じた場合は、書面と電話等でご説明し納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に頂いたご意見を検討し実施できるものは実施し、ご家族様へ結果を含めご返答させていただいている。また、電話での対応も行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	計画的に個人面談を実施し、夜勤者を含め年に2回面談が出来るように動いている。また、新入職員に関しては1か月・3か月と定期で面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間等については、出来る限り職員の希望に添える形をとっている。また、就労契約更新時には面談を設けて個別に向上心を持って働いてもらえるよう面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	Eケアラボというシステムを活用して毎月研修を行っている。また、本社教育部が定期的に訪問し職員全員に研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一建物内で多職種との交流をする機会がある。電話などで待機者のCMへ連絡を行い意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学を実施し、その時にご本人様の様子やニーズを確認し、関係機関から必要な情報をもらい、会える環境であればご本人様に直接会ってお話をして安心をして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	待機の状況でも定期的にご連絡を取り、状況確認を行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様の要望を把握し、必要としている支援を見極めて安心して暮らせていける環境作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、得意な事(家事動作など)を職員が導き、一緒に行っていくことで関係性を構築していく。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話・お便り・面会時などでg入居様の様子をお伝えしご家族様との情報共有に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話でのやり取りや、面会を通してご本人様の関係維持に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の性格や相性を考え、席などを考慮し孤立しないで楽しい生活が送れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様・ご家族様がご相談やご要望があった際、出来る限りお応え出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や様子から思いを把握し、ご本人様の意思を尊重しながら実現化できるよう支援を行っている。毎月ケアカンファレンスを行い意見交換をしながら、ご本人様に合った支援を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴を含めた情報を各関係者より頂いて、頂いた情報は記録に残し情報共有・把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	タブレットを用いて、ご利用者様の心理状態や身体状況、行動などについて、申し送りで見守りやすぐ分け記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的に3か月で1回、計画書の見直しを行いご本人様の変化やご家族様・ご本人様の要望等を考慮し現状に即した計画書になるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々の生活をタブレットを用いて、直ぐに情報を記録し、色々な職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に合わせて、同一建物内にある他事業や医療連系に相談して最適な生活を送れるよう繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、地域資源の活用は訪問理美容を利用になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い希望を伺っている。現在訪問診療は、週1回訪問歯科・週2回訪問診療・健康管理で週1回訪問看護が来ている。また、訪問看護は体調変化等へ直ぐに対応できるよう24時間連絡体制が整っている。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の訪問看護ステーションが週1回健康確認を行い、その際に職員から情報提供して共有を図っている。訪問状況はタブレットに入力し内容を確認している。24時間の連絡体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院になった際は速やかに、介護・看護添書などの情報を病院へ提供し共有をしている。また、担当者へ細目に連絡を取り、状態把握をし退院後の受入れについて職員間で話し合っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に関する指針や、現段階での看取りについてご家族様へ説明し書面で同意を頂いております。終末期にかかってきた際は再度ご家族様へご意向を確認し、主治医を交えて方針の決定・共有を図るように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法を作成し掲示しています。また、転倒等の事故で病院受診が必要になった際も対応を職員には周知している。応急手当の実践訓練は実施できていないがeケアラボで視聴により学ぶ体制が出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の中避難訓練を実施している。また、災害対策で食料や暖房などを備蓄している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活環境や性格を考慮したうえで自尊心配慮したケアを心掛けている。個人情報も外部に漏れないよう細心の注意喚起を引いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思が聞き入れやすくなるよう、言葉かけ等に工夫を行い自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースに合わせれるよう時間帯をずらせる物はずらし対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身での洗濯ができる方は自己決定を促し、職員で選ぶ場合は季節感や同じ服で重複しないよう配慮しながら実施している。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に合わせ食べやすい形状に合わせ、出来る限り自力摂取で召し上がれるように工夫を行っています。色合いなどの見た目も気を付けて提供しております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タブレット内で1日の食事量・水分量を把握し、不足にならないよう確認を取りながら提供している。栄養バランスは栄養士が作成するメニューを基に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎回、口腔ケアを実施している。出来る限り自立援助で行い、磨きの腰を職員でd行うようにしている。義歯の方は夜間に預かり洗浄を行い清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、出来る限り汚染なく過ごして頂けるようトイレ誘導している。トイレは場所が分かるように目印を用いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維などを用いて、なるべく薬を使用しない様に排便促進を促している。毎食前には口腔体操を含めてた体操を実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴を実施している。ご利用者の趣味嗜好に合わせたシャンプーや石鹸を使用し、肌に合わせたタオルを使用している。体調に合わせて曜日などは変更し対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自身の希望・ペースに合わせて休息時間を設けている。夜間は安心して休息が取れるように個室のクーラーを用いて快適な温度設定を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイリングし変更があった場合は常に更新している。また、薬の変更があった場合は職員へ申し送りにて情報共有し適切な服薬が出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味嗜好を考慮し、ご利用者様個人にあった役割や脳トレを提供している。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて外出支援は出来ていない。施設周辺を散歩したり、施設敷地内で季節を感じてもらえるイベントを実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様やご家族様のご意向を考慮し、管理できる範囲であれば少額所持できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様・ご家族様がお話したい時は、いつでもできる体制を整えている。手紙のやり取りも支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置・音・光・温度の調整は配慮している。個々によって感じ方が異なる為に平均を取って行っている。壁紙などに季節感を感じてもらえるよう装飾を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うメンバーなどで寄り添うように配席している。ただし、固定をしてるわけではなくご利用者様がその時々で落ち着ける場所があれば柔軟に変更を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様・ご家族様にて安心して過ごせる環境を基に家具等を持ち込まれ居室区間を工夫されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーになっており、手すりも完備されている。また、階段昇降が困難な場合でもエレベーターにて移動が可能になっている。居室はご本人様が迷わない様に表札や、飾りを付け工夫をしている。		

目標達成計画

事業所名 ツクイ札幌麻生グループホーム

作成日：令和 5年 10月 25日

市町村受理日：令和 5年 10月 27日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	23	会話や仕草、表情などから思いや意向を把握している。趣味や、嗜好などの変化についても職員間で情報交換しているが、見やすく記録化されていない。	フェイスシートなどを利用して趣味や嗜好などの情報も記録し、変化に応じて追記や更新を行うよう期待したい。	弊社で使用しているシステムでは趣味や嗜好を記録できる項目がないので、手書きなどで記録を行い、ご利用者の状況や状態に応じて記録の更新を行い、職員が一貫してご利用者が楽しめるサービス提供できるよう努める。	6か月
2	35	感染対策のため、職員のみで防火技術センターの協力のもと、建物全体での昼間の火災を想定した避難訓練を年に2回実施している。感染症の終息状況を見ながら、職員の救命講習の受講を予定している。	地域との協力体制を再確認し、地域住民も参加した避難訓練を実施したい。夜間の火災や各種災害時のケア別の個別対応について話し合い定期的に再確認したい。	防火技術センター協力で実施する避難訓練、防火火災訓練に地域住民の方も参加を促し実施を行う。また、各種災害対策としてハザードマップの活用や避難場所の確認を定期的に行い災害対策を実施していく。	感染症 状況に 応じて
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。